

# 日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

\*主な記事：日本パペットセラピー学会第14回大会のご報告・その他  
ニュースレター 2020, No. 2  
2020年11月14日 JPTA事務局 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 8-10-7  
メールアドレス info@j-pta.net FAX 03-3702-3097

第14回大会はコロナ禍のため、オンラインで行われ全国各地からのご参加をいただき大盛況に終了することができました。ご参加くださいました皆様からのアンケートを含め、今大会のご報告をさせていただきます。

(編集長 中下富子)

## 第14回大会を終えて

### 大会長 千葉俊一

第14回大会開催の準備はこのコロナ禍の中で半年前からおこなわれました。当初、私としてはコロナウイルス感染拡大で、はたして大会が開催できるのかと不安でいっぱいでした。大会での感染予防の観点から、Web開催となり、パソコンに不慣れな私としては、Web開催などできるのだろうか、大会開催の不安は増大し体が震える思いでした(※ちょっと大げさですが)。そんな不安を抱えながらも、Go to トラベルならぬGo to 学会を楽しもうと、多くのみなさまの協力のもと準備を進めてまいりました。理事長の原先生、副大会長の東先生、そして理事の先生方、みなさまの心温まる助言、協力を助けられながら、なんとか無事終えることができました。



今終えて、正直、ほっとしております。発表いただきました先生、会員のみなさまには心より感謝を申し上げます。Webでの開催とあって、なにかとご不便や困難を感じた方々もいらしたのではないかと心苦しく思っていました。大会でのご発表をお聞かせいただき、その内容のすばらしさに感動しました。パペットのすばらしさ、力強さ、パペットには人の心を動かす力があることを改めて感じる大会となりました。腹話術としてのパペットではなく、セラピーとしてのパペットの魅力と力をあらためて感じた大会となりました。

大会1日目の教育講演の黒田舞先生のお話では、子どもに接する際の基本姿勢を細かく、またわかりやすく教えていただきました。私は、普段大人が子どもに接するとき、慣れから無意識のうちにぞんざいな接し方をしていることが多かったのではないかと黒田先生のお話を聞きながら気づかされました。

大会2日目の口頭発表では2題発表がなされ、子どもと高齢者へのパペットの活用にはそれぞれ年齢に合わせた活用方法があること、またそのことでの成果もあったことを報告いただきました。年齢を超えたパペットの活用を知ることができました。ポスターセッションでは近喰先生らがパペットの作成を通して親子関係の関係づくりの研究の発表をいただき、東先生は、今までの腹話術の歴史を通して、腹話術の面白さ、旧約聖書の御言葉との関連を紹介いただきました。また、シンポジウムでは3人のシンポジストの違った立場からパペットのセラピーとしての活用の話があり、とても興味深く聞かせていただきました。Web開催において、大きなトラブルもなく最後まで進めることができたことは今大会の最大の成果と言えるでしょう。感謝の気持ちでいっぱいです。

**アンケートより(大会長講演)** 歯科医師としてのパペット活用を映像使用し紹介していただき、深い学びとなりました。子どもとの信頼関係が大切ということを理解できました。

**アンケートより(大会長講演)** 映像をふんだんに取り入れていただくことによって、とてもわかりやすく説得力があつて良かったです。パペットセラピーは色々なシーンでまだまだ活躍できると確信しました。

### アンケートより

**(オンライン大会)** オンラインで集中して学ぶことができ、良かったです。チャットで随時色々な方からのコメントが見られるのも、会場での開催にない利点だと思いました。

**アンケートより (オンライン大会)** 実際に集まることができない場合は、とても有効だと感じました。事前に送付していただいた詳しい資料と、zoom の練習を設定していただいたおかげで、安心して参加することができました。理事の方々皆様に深く感謝申し上げます。発言者の顔が正面から見られたことも、発言内容が良く伝わってきましたし、資料を画面共有で確認できたことも、わかりやすく、良かったです。

ただ、画面を注視することの疲労感がありましたので、今回以上の長い時間になると、辛いと感じました。



### 教育講演 ご報告

大会では毎年、外部の学者を招聘して、パペットセラピーに関係する教育講演をお願いしています。今回は学会活動の一つである「被災地支援」の基礎的行動原則を PFA から学ぶことを目的に、黒田舞先生（埼玉県立小児医療センター所属の臨床心理士）にお願いしました。数年前に、横浜での先生の PFA の講演会に参加した際、ロールプレイが含まれた、被災者への接し方を具体的に学ぶことができましたので、早速その会場で大会のご講演を依頼しました。今回はウェブ開催のため、残念ながらロールプレイは体験できませんでしたが、目的は十分に果たせたと思います。PFA の行動原則の「準備」・「見る」「聞く」「つなぐ」(P+3L: Prepare + Look, Listen, Link) を先生の動作も交えて詳しく解説していただきました。「聞く」では、子どもに接する場合は大人が直接に話しかけないで、パペットを介して話す「Triangulation」の解説もありました。私たちが被災地で実践したパペットセラピーの活動と重なるものでした。(教育講演 座長 原美智子)

**アンケートより (教育講演)** トライアングレーションに於いて、パペットは、子供たちとのコミュニケーションや、傾聴をする上で、大きな役割を果たすことがわかりました。それを、どのように、日常の実践に取り入れていくかを学びたいです。

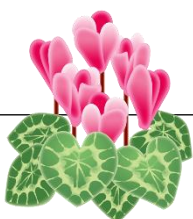
**アンケートより (教育講演)** 心理的応急処置について学び、援助者への接し方を知ることができ、とてもためになりました。支援をする際、こちらが助けたいと思ってした行動がいきすぎると、相手にさらに緊張を生ませしてしまう場合もあるのだと知り、相手の立場にたって行動することが大切だと学びました。

### 口頭研究発表 ご報告

多動・衝動傾向のある4歳男児の事例(南先生)では、パペットとの間に愛着関係を築いて安心感を得た上で、パペットと自分を重ね合わせて自己認識を高め、感情の自己調整ができるようになった短期間の変化のプロセスが3つの期に分けて的確に示されました。認知症症状のある寝たきりの89歳の女性の事例(根岸先生)では、パペットが、病室を癒しの空間とし、またセラピストの分身としてセラピストの不在時にも安心感を与える存在として機能していたことが示されました。お2人共、肉親とのファミリーパペットセラピーの効果を自ら実感された事例のご発表で、その深い体験が糧となり、今後セラピストとしての腕を上げられるだろうと思いました。(口頭発表 座長 森平直子)

**アンケートより (口頭発表)** パペットの持つ力を改めて感じる発表内容でした。どのような場面でもパペットは、力を発揮する。ですが、それを操作する人の思いが伝わるからこそ、よりパペットが力を持つのではないかと思います。

**アンケートより (口頭発表)** どちらもパペットが対象者の方にとって、そしてパペットを使用するご家族にとって、とても意味のある存在になっていた事例で感動しました。どちらも家族の中に入るパペットのファミリーセラピーのモデルとして素晴らしいと思いました。セラピストとして家庭の中でこのように使っていただけるようにパペットを上手に家庭に送りいれてあげるノウハウをセラピストが学ぶ必要があると思いました。



## ポスターセッション ご報告

ポスターセッション-1は、本学会の近喰理事が長年研究されているコラージュをパペットに置き換えて、母子関係の回復に迫った研究報告です。平面のコラージュに対してパペットは立体的であり、製作行程も異なります。出来上がったパペットに語りをはじめ、自省以前の状況が表現できたという結果が興味深いです。ポスターセッション-2は東理事の腹話術の意味と起源の研究報告です。本来は奇術のジャンルであり、紀元前1500年頃のモーセの律法では死者の霊を呼び寄せ未来を占うものとのことです。また、自分の声とは違う声を他者に発する行為も紀元前からあったとのこと、今まで考えも及ばなかった腹話術の起源の更なる研究報告が楽しみです。

(ポスターセッション 座長 上原美子)

**アンケートより (ポスターセッション)** 2つのポスターセッションをじっくり聴かせていただけたのもオンラインの良さだと思いました。ただその分、時間が短くなってしまったのが、残念ではあります。どちらのご発表も、大変興味深く、今後のご研究の発展も楽しみです。

**アンケートより (ポスターセッション) KIDS 質問紙** について、詳しく知りたいと思いました。また、パペットセラピーと腹話術は切り離せない関係ですので、その歴史について、知ることができて良かったです。今の時代における腹話術の効果について、もう少し詳しく知りたいと思いました。

## シンポジウム「パペットのセラピーとしての魅力と今後の活用法」ご報告

東海林会員から SST におけるパペットの可能性について話題提供されました。「ふわっと言葉とちくっと言葉」の実践を通して、モデリングと安心安全の空間の必要性、そしてワークショップ後の継続と追跡の重要性が強調されました。近喰会員からは具体的症例を示され「さて、どこでパペットを登場させるか」と問われました。本学会の研究団体としてのノイエス（新知見）をいかに絞り出していくか、そのための研修会の必要性を訴えられました。対馬会員からは家庭に溶け込んで存在するパペットの働きについてのご発表でした。被災地や介護施設での体験も語られ、人々に「生き抜く力」を与えるパペットの役割をもっと認識しなければならないと思われました。

ZOOM でも活発な質疑応答がなされ、若い学生さんたちの声も聞かれ充実した時間になったと思います。副大会長としては、何より無事オンラインで開催できたこと、後日配信できたことに胸を撫で下ろしております。

(シンポジウム 座長 副大会長 東義也)

**アンケートより (シンポジウム)** 時間がたっぷりあって意見公開が活発にできてとても良かったと思います。やはり意見交換の時間を長く取れるというのは良いですね。どのご発表もとても参考になりましたが、特に近喰先生の問いかけが、とても斬新だけれども、確かに重要な問いかけだと思い、こういうことを、自由にディスカッションできる場があると良いと思いました。

**アンケートより (シンポジウム)** 医療の現場は生死とも隣り合わせ、そんな中でパペットセラピーをどのように活かせるか、難しい質問を投げかけられました。本当に真剣勝負ですね。SST に関しても大変勉強になりました。

## 第14回大会に参加して

今年度は、初めての試みとしてオンラインによる開催でしたが、講演者、発表者の様子も提示される資料も身近なパソコンの画面でよく見ることができました。ZOOMによる長時間の視聴も疲れることもあったので配慮で2週に分けられたことも良かったのではないかと思います。

4日の教育講演 黒田先生による「子どものための心理的応急処置」も初めて学ぶ内容が豊富で、一人一人異なる子ども特有のニーズにどう支援をしていけばよいのか、年齢ごとの特徴が具体的に示されよく理解できたと思います。心理的な応急処置の行動原則、準備と3つのL (Look、Listen、Link) についてもいつか時間を



かけて研修に参加したいと思いました。傾聴し気持ちを落ち着かせる場面でパペットがどう活躍できるか追求したいと思いました。

11日の大会長講演では、歯科医師として親業の講師として、また宮城在住の会員として被災地支援のまとめ役としての活動に、千葉先生のエネルギッシュな情熱を感じました。2つの口頭発表（南、根岸会員）も、今まで学会が開催してきたワークショップや学会機関誌の内容から学ばれたことを実践に活かされた取り組みがとても良い成果を上げられていることがわかりました。ポスターセッションも、母子関係回復への取り組み、人形・腹話術の起源に関する研究で近喰先生たちや東先生による興味深い内容でした。午後からのシンポジウムも、対面でも直接な論議がもっと活発にできたのではないかと感じましたが、パペットセラピーと心理、教育、医療、家庭療育等それぞれの分野の方々とのコラボレーションにより、今後の活動に対して鋭い指摘をいただいたように思います。

来年は、対面での第15回大会が実施でき、延期になっている東海林さんのセミナーも開催できることを願っています。  
(総合司会 高村豊)



## 第15回大会（2021年度）ご案内

会期：2021年11月（細かい期日は未定）

会場：東京都豊島区・全国心身障害児福祉財団ビル

第14回大会は、新型コロナウイルスの影響でZOOMによるリモートでの開催となりましたが、幅広いパペット活用実践報告や心理学的研究、PFAや腹話術起源研究など、バラエティに富んだ充実した大会となりました。

来年度の15回大会は、できればまた皆さんが「集う」大会として行いたいと考えています。正直なところ、保育・教育、福祉、医療などの場で、パペットセラピーはあまり広まってはいないと日頃感じています。パペットをもっといろいろな人に知ってもらい、手にとって使ってほしいということで、「パペット、手に取ってみようよ。（仮題）」というテーマで開催してみたいと考えています。コミュニケーションツールとしての素晴らしさを保育や福祉に携わる人にどうアピールできるのか、また、セラピー、心理療法としてなにができるのか、実践報告、研究発表を通じてみんなで考えられたらと思います。また、できることなら学会員以外の人にもできるだけ来てもらえるよう声を掛け、「パペットってこんなに楽しいんだ！」といったことも知ってもらえたらと思います。まだ曖昧とした構想ですが、皆さんのご意見をいただきながら実りある大会にしていきたいと思っています。

(第15回大会長 出山雅章)

### 事務局だより

皆様お元気にお過ごしでしょうか？今年の大会は、新型コロナウイルス感染予防のために、初めてのWeb開催となりましたが、通信障害などの大きな事故もなく、会員の皆様のご理解・ご協力のもとに無事終了することができました。ありがとうございました。まだまだ事態は治まる様子がないため、学会主催の講習会の実施は見合わせており、例年2月に行われていた、埼玉大学または埼玉県立大学でのパペット制作の講習会も中止となりました。学会のお知らせなどは、ホームページに掲載されていますので、定期的にチェックをお願いします。今年度の大会の報告が、「大会歴」に写真付きで掲載されています。また、「リンク先」に安藤倫子会員のホームページが追加されました。腹話術の動画もありますので、パペット操作や腹話術の参考にご利用ください。会員の方は、メールアドレスや住所の変更がありましたら、事務局にご連絡ください。事務局からの連絡の円滑化に、ご協力をお願いいたします。

来年度のパペットセラピストの申請は2021年5月末締め切りで現在受付中です。5年以上の学会歴のある方はふるってご応募ください。ご連絡をお待ちしております。

